

対象者は
確認を

重度医療の受給者証と決定通知書を更新

弘前市重度心身障害者医療費の受給者証と決定通知書を10月1日から更新します。対象者には新しい受給者証または決定通知書を送付しましたので、裏面に記載の注意事項を必ず読んでご利用ください。また、内容に変更がある場合は必ず届け出をしてください。

①受給者証

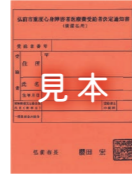
- ▼対象者 国民健康保険加入者
- ▼利用方法 医療機関を受診する際に健康保険証と一緒に提示すると、窓口で支払う医療費が軽減されます。



※県外の医療機関を受診する場合や受給者証を提示しなかった場合、償還払いの手続きが必要です。

②決定通知書

- ▼対象者 社会保険加入者および後期高齢者医療保険加入者
- ▼利用方法 償還払い



【償還払いの方法】

医療機関で医療費を支払った後、障がい福祉課へ領収書と印鑑を持参して申請してください。後日、本人名義の口座に助成額を振り込みます。
※申請期間は診療月の翌月から2年以内です。

●重度医療とは

弘前市重度心身障害者医療費助成制度では、重度の障がい者が健康保険証を使って医療機関を受診した場合、入院・外来を問わず医療費を助成します。

▼対象 障害者手帳取得時または障害等級変更時に65歳未満の人（平成16年9月30日以前に手帳を取得している場合はそれ以前に重度医療の資格を有する人）で、次の①～③のいずれかに該当する人

- ①身体障害者手帳1、2級および内部障害3級（免疫機能障害・肝臓機能障害を除く）
 - ②愛護手帳（療育手帳）A
 - ③精神障害者保健福祉手帳1級
- ▼支給の制限 上記対象者であっても、所得や保険の種類によって制限があります。次の①～③の場合は医療費の助成はありません。
- ①一定所得以上の人
 - ②65歳以上で市民税課税世帯に属する人
 - ③65歳以上で後期高齢者医療保険に加入していない人

■問い合わせ・申請先 障がい福祉課障がい者医療・給付係（市役所1階、☎40-7036）



連載 むっちゃんの 教えて文化財!

■問い合わせ先 文化財課
(☎82-1642)

第5回 弘前藩に伝わる剣術 当田流剣術

最近新たに指定された文化財や、話題になっている文化財の魅力を毎月お伝えします!

案内人・むっちゃん
文化財行政に携わって12年! 学芸員資格を持つスペシャリスト(?)職員。和菓子のあんこは粒あん派。



当田流剣術は藩政時代から弘前藩の武家を中心に継承されてきた剣術の流派。いつどう ぼくでん 一刀流、卜傳流と並んで当時、多くの藩士が学んだ剣術の流派でした。

静かに相手に近づき一瞬で仕掛ける技が多いのが特徴!

近代剣道とは違う「古武術」感が残っています

実際の演舞は毎年開催されている青森県武道演舞大会などで見られます

機会があれば、ぜひ見てね!

当田流は元々太刀、小太刀、棒術、鎌術、槍術などさまざまな武具を用いた、総合的な体術でした。現在は太刀と小太刀の技が途切れることなく継承されています。

◀当田流で伝承される秘伝の巻物

次回「前川國男の最初の作品 木村産業研究所」

環境ニュース

■問い合わせ先
環境課廃棄物政策係 (☎32-1969)

令和5年4月から ペットボトルのラベルはがしにご協力をお願いします

これまで、ペットボトルのラベルはできるだけはがしてから出すようお願いしてきましたが、必ずラベルをはがして出すよう変更します。より高品質なリサイクルのため、ご理解・ご協力をお願いします。

- はがしにくいラベル（ミシン目・はがし口がない、のりづけしてあるなど）は無理にはがす必要はありません。
- 変更は令和5年4月からですが、今からはがして出しても構いません。

チェック!

ペットボトルの出し方

このマークの飲料品、調味料品などが対象です



キャップとラベルは「燃やせるごみ」へ。

より便利に より進化! 弘前市ごみ収集アプリを リニューアル

次の新機能を追加しました!

- ごみに関する新着情報のプッシュ通知
- 資源物回収拠点マップでの食品（フードボックス）検索

収集日の通知や分別検索など、ごみ出しに役立つアプリです。QRコードからご利用ください。



※QRコードが読み取れない場合は、AppStoreまたはGooglePlayから「弘前ごみ」で検索を。

※すでに利用中の場合は、アプリをアップデートすると、そのまま新機能も利用できます。

Hirosaki Art Times

ヒロサキ・アート・タイムズ #19

弘前れんが倉庫美術館に関連する情報を連載します。
■問い合わせ先 弘前れんが倉庫美術館（吉野町、☎32-8950、<https://www.hirosaki-moca.jp/>）

ピンク色の窓の正体——美術館から街へ

弘前れんが倉庫美術館を芝生の広場から眺めると、窓が「ピンク色」になっているのを知っていますか?

11月13日（日）まで、青森をアートでたどるプロジェクト、原高史〈AOMORI MAPPINK MEMORY「記憶の未来」〉が県主催で開催されています。土地の歴史や文化、記憶をたどりながら、街の魅力を再発見しようという試みです。会場は、弘南鉄道弘南線の車両、弘前駅・平賀駅・黒石駅の駅舎、美術館の2階にある市民ギャラリーです。現代美術家の原高史さんが地域の人々にインタビューを行い、制作した映像も見どころの一つ。プロジェクトの特別冊子がついてくる1日乗車券もあるので、弘前駅から黒石駅まで、ぶらりと電車の旅をしてみるのもいいですね。

このプロジェクトのほか、美術館がお勧めする

店舗などを巡る「五感で味わう弘前まち歩きスタンプラリー」も開催しています。これはスマートフォンを利用したスタンプラリーで、美術館だけでなくその周辺で楽しめるスポットを紹介しています。アート鑑賞を楽しんだ後は、気になるお店に立ち寄ってみたり、普段は車で通り過ぎる道を歩いてみたり。芸術の秋、いつもとちょっと違う新しい風景と出会ってみませんか。



▲プロジェクトを開催している美術館の外観